第16回「海の香りのする詩」市内小学生の部で大賞に選ばれた北川さんの作品です。初体験の漁への積極的な仕事ぶりと緊張感がみごとに書けています。きびしいけれど、楽しい家族の海での生活です。（選考委員長　渡辺正也氏評）
背景の挿絵も北川さんに描いていただきました。（関連記事を13ページに掲載しています）

わたしの海

弘道小学校六年　北川波那

初めて海にもぐる
長そで長ずぼんを着た
母ちゃんとばあちゃんといっしょに海へ出る
船の運転はじいちゃん
「ここらにしよか」
そういうとばあちゃんは大波の中へ
スウー
さあ、わたしも…
下を見ると暗い
思いきって海に入ると
わたしが海に入ると
波がおこったように
バッシャンバッシャンとすごい波
わたしは母ちゃんについていく
母ちゃんはよゆうで海の中を進んでいく
ウニを次から次へととっていく
波那も、とってみ」
わたしはもぐった

わかめがもしゃもしゃ　岩がゴツゴツ
かめの手もいっぱいだ
ちょっと慣れてきた
ウニ発見
わたしは目をつけた
「にがさないぞ」
のみでグッ
ウニも必死だ
思いきり岩にくっついている
息がもたない
もう一回息をととのえ海へもぐる
わかめも魚もわたしを見てる
ウニを引っぱると入パッととれた
どうやって」
母ちゃんにじまん
ばあちゃんはふくだめ、ウニ　大漁だ
母ちゃんはウニ、サザエ、アワビ
こっちも大漁だ
ばあちゃん母ちゃんにはほどとおいけど
わたしの中では大漁だ